



# 赤石

学校のめあて

心豊かで  
たくましく  
いつも進んで学ぶ子

TEL 25-4450 [http:// www.isesaki-school.ed.jp/kitasyo/](http://www.isesaki-school.ed.jp/kitasyo/)

## 交通事故に気をつけましょう

2月は、交通事故ゼロ強化月間になっています。市教育委員会の話では、今年度は学期末に交通事故の発生が増加する傾向があるということです。よって、これから学年末となるので、引き続き、学校では子どもたちの交通事故の防止に努めていきたいと思えます。子どもたちが交通事故に遭わないようにするために特に大切なことが3点あります。一つ目は技能です。自転車の運転を例に挙げれば、バランスを取り自転車を運転すること、安全に停止することなど、自転車を正しく操作する身体的能力が自転車の運転では大切です。二つ目は、交通安全に関する知識です。これには左側通行、信号遵守、ヘルメットの着用など、道路交通法に定められたルールの理解が大切になります。三つ目は、行動・態度で、この中には危険を予測し、他者（歩行者や車両）を尊重する心構えや交通社会の一員としての自覚と責任感などが含まれています。そして、これからの安全教育を考えるときには、単なる「知識」の伝達に留まらず、実践的な「技能」と最も重要な「行動・態度」の育成に焦点を当てる必要があります。子どもたちの危険を予測する力、安全な行動を考え、判断し、実行する力を育成していくために、学校と家庭で継続的に指導をしていくことが大切です。

次に一枚の資料を使って、どのような危険があるのかを考えてみたいと思えます。この資料では、中学生が登校のために交差点を横断しようとしています。資料にもあるように、右側が家の生け垣で死角になっています。よって、右側から車が来ている場合は、中学生と車の運転手の両者がお互いを認識できません。そして、

### <ケース1>どのような危険があるのでしょうか？



道路に止まれの文字と一時停止の標識があるので、交差点を横断するときは必ず一時停止をしなければなりません。この中学生が一時停止をしないで交差点を横断しようとすると右側から来た車と交通事故が起きやすいことが分かります。また、右側から歩行してきた人がいた場合にも、その人に衝突する可能性があります。あわせて、道路の右側を自転車で通っていることも交通事故を起こしやすい要因になっています。

伊勢崎市教育委員会の資料より

# 大切な子供たちの命を守るために

令和5年(2023年)に起きた中高生の通学時1万人当たりの自転車事故件数は、群馬県が中学・高校共に全国で最多だったことが、民間団体「自転車の安全利用促進委員会」の調査で分かりました。令和6年4月から12月までの市内幼稚園、小・中学校、中等教育学校の子供たちの交通事故発生件数は89件で、大変多く発生しております。

大切な子供たちの命を守るために何をすべきなのか、それぞれの立場で真剣に考え、実行していきましょう。

## ◎中学生・高校生の通学時1万人当たりの自転車事故件数ランキング(2023年)

中学生の通学時1万人当たり事故件数ランキング(2023年)

順位	前年順位	都道府県	事故件数	1万人当たりの事故件数	
				2023年	前年
1	1	群馬	175	34.63	32.03
2	4	徳島	35	19.70	11.80
3	2	香川	48	18.88	16.30

高校生の通学時1万人当たり事故件数ランキング(2023年)

順位	前年順位	都道府県	事故件数	1万人当たりの事故件数	
				2023年	前年
1	1	群馬	525	108.92	93.63
2	2	静岡	592	64.80	56.67
3	3	徳島	78	45.64	43.27

※出典:自転車の安全利用促進委員会資料より

## ◎本市の児童生徒の交通事故事例

### case 1 「中学生の通学中の事故の例」

自転車に乗車中、見通しの悪い交差点で、一時停止をせずに侵入し、自動車と接触して転倒した。



### case 2 「小学生の通学中の事故の例」

下校途中、車の往來が激しい、横断歩道のない道路を、横断しようとして飛び出し、自動車と衝突した。



## ◎家庭では、

**お子さんと交通ルール、マナーを確認し、ご指導をお願いします。**

「自転車安全利用五則」をしっかり守りましょう。

- 1 車道が原則、左側を通行  
歩道は例外、歩行者を優先
- 2 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
- 3 夜間はライトを点灯
- 4 飲酒運転は禁止
- 5 ヘルメットを着用

群馬県内の中学・高校生の自転車事故の現状から、14歳以上の生徒の違反を伴う事故が発生した場合、刑事上の責任を問われる可能性があります。

## ◎学校、幼稚園では、

子供たち自身が自分の命を守れるように、

①危険を予測する力      ②危険を回避できる力

を身に付けさせるために、子供たちの発達段階に応じて指導します。

**6、9、2月は「交通事故ゼロ！強化月間」**  
**合言葉は「止まる・見る・確かめる」**